

ほほえみ

がん
特集 49

卵巣がんと 低用量ピル(LEP)

産婦人科 教授 ふじむら まさき 藤村 正樹

最新医療を知ろう
骨折治療の最前線！

- 職場探訪 -内視鏡部のご紹介-
- トピックス
 - ・「ピンクリボン運動」を振り返って
 - ・新入職員紹介
- 医療連携紹介
- 病院からのお知らせ

東京医科大学茨城医療センター

<http://ksm.tokyo-med.ac.jp/>

発行日：2020年10月1日

発行人：病院長 小林 正貴

発行所：東京医科大学茨城医療センター

〒300-0395 茨城県稲敷郡阿見町中央3-20-1 TEL029-887-1161 (代)



がん特集 49 卵巣がんと低用量ピル(LEP)



産婦人科 教授
 ふじむら まさき
藤村 正樹
 日本産科婦人科学会 専門医
 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医
 日本臨床細胞学会 細胞診専門医
 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
 日本がん治療認定医機構 暫定教育医

最初に

卵巣がんは女性のがんの中では見つけにくく、治りにくいがんと言えます。

女性特有のがんでは、乳がん、子宮頸がん、子宮体がんの頻度が高いのですが、この中で最も生存率が低いと考えられているのが卵巣がんです。これは、腫瘍が骨盤の中で発育するため症状が出にくく発見が難しい、そして子宮頸がんや乳がんの様にがん検診が整備されていないことから、見つかった段階で進行していることが多く、生存率が低くなると考えられています。卵巣がんの治療は年々進んでいますが、まだ多くの女性が亡くなっているのが

現状であり(図1)、最近では、卵巣がんにかかる人が増えて来ています(図2)。生存率が改善しないのであれば、卵巣がんを予防する方法があれば、是非予防を考えたいところです。予防をする方法を考える場合、その原因を考える必要があります。

卵巣がんの原因

卵巣がんの原因は、卵細胞が卵巣の表面を破って卵巣から飛び出し卵管の中に吸い込まれる際に、排卵後の破れた部分に卵管から落ちた細胞ががん化する(図3)と、子宮内膜症によって卵巣にできるチョコレート嚢胞からがんが発生する場合(図4)が多いと考えられています。

子宮内膜症とは

子宮内膜症は、子宮の内面を覆う「子宮内膜」細胞が、月経時に月経血に乗って卵管からお腹の中に到達し、腹膜の表面や卵巣表面にくっつき、そこで月経の際に月経と同じ様な出血が起こるために、強い炎症を起こし、月経時の痛みを増強したり(月経困難症)、周辺に癒着を起こして不妊症の原因となったりすることが知られてきました。この疾患は、月経の回数が多くなればなる程進行し悪くなってゆきます。卵巣の中に血液がたまると、溜まった血液は何度も月経が起こる中で液体部分が吸収され、次第に凝縮して濃くなってゆきます。そのため、その中には

チョコレートが溶けた様なタール状の古い血液がたまる様になり、これをチョコレート嚢胞と呼びます。最近の研究では、このチョコレート嚢胞の状態が長く続いてゆくと、閉経前後から閉経後にかけてかなりの確率で中からがんが発生することがわかってきています(図4)。

排卵と卵巣がんの関係

これまで述べてきた様に、①排卵時の破裂した卵胞の部分に卵管からの細胞が落ちてきてそれががん化する、②子宮内膜症の卵巣にできるチョコレート嚢胞ががん化する、の二つのルートで卵巣がんの多くは起こってくるのがわかってきていますが、この二つのがん化過程には共通した現象が一つあります。それは「排卵」です。排卵後の卵胞に落ちてきた卵管の細胞ががん化する場合や、排卵の14日後に必ず起こる「月経」によって進行・悪化してゆく子宮内膜症・チョコレート嚢胞、いずれも排卵によって、卵巣がんができる素地が作られているのです。

排卵は卵巣がんの原因？

この様に考えると、排卵回数の多い女性は卵巣がんにかかる

機会が増えることが想定されます。女性が妊娠すると、妊娠中に次の妊娠を防ぐ仕組みがあるため、妊娠期間中は排卵が抑制されます。また多くの女性では、赤ちゃんが生まれてからおっぱいをあげている間も排卵が抑制されます。妊娠期間は約10ヶ月、そして授乳期間は約1年であることを考えると、女性が一度妊娠すると2年近くは排卵が起こらない事になります。そうすると、一生の間に10人赤ちゃんを産む女性では、なんと20年近くも排卵が抑制される事になります。昔の女性達は沢山の赤ちゃんを産んでいましたので、現代の女性より排卵回数は圧倒的に少なく、また寿命も短かった(昭和になる頃までの平均寿命は50歳前後、閉経された後はあまり生きられなかった事がわかります)ことから、卵巣がんには

極めてなりにくかったことが想定されます。事実、現代でも沢山出産した女性には卵巣がんが少ないことが疫学的にわかっています。現代の女性は、晩婚化が進み、最初の赤ちゃんができる時期は30歳を超えています(図5)。即ち、初経から妊娠までに20年近い期間は、排卵がそのまま起こっている事になります。そして赤ちゃんを産む数も一人当たり2人を下回っていて、平均寿命から考えると閉経後の卵巣がんが起こりやすい時間が約30年もあります。平均寿命が50歳で沢山の赤ちゃんを産んでいた過去の時代と比べると、圧倒的に現代の女性は卵巣がんにかかりやすいことがわかります。これを何とかする方法はないのでしょうか。

低用量ピルは月経痛(月経困難症)の治療薬！

実は、現在月経困難症(月経時の辛さがひどく日常生活に支障が出る状態)に対して用いる事が出来る薬に低用量ピル(Low dose Estrogen & Progestin :LEP)があります。この薬は、本来卵巣から分泌されるはずのエストロゲン、プロゲステロン両方の女性ホルモンを少量含んでいます。

図3 排卵時の卵巣(①)と卵巣がん発症のメカニズム(②)

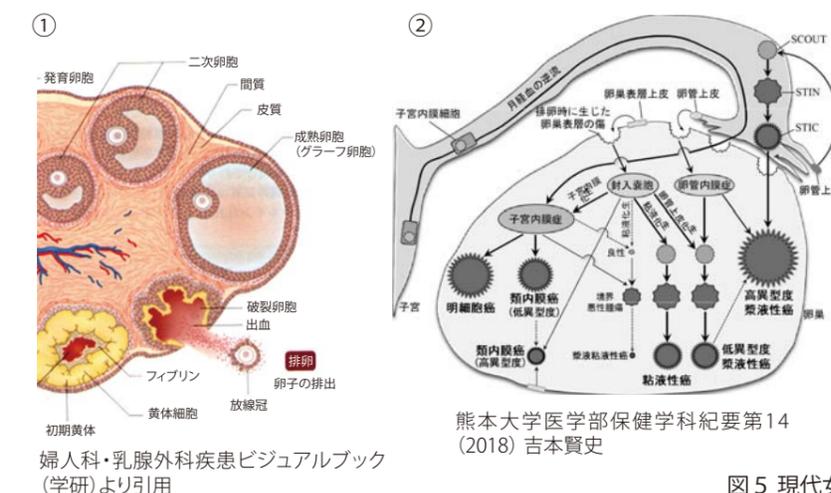
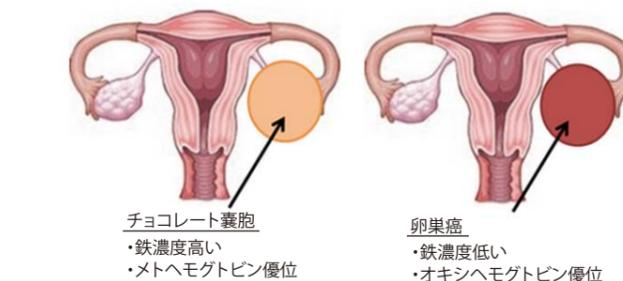
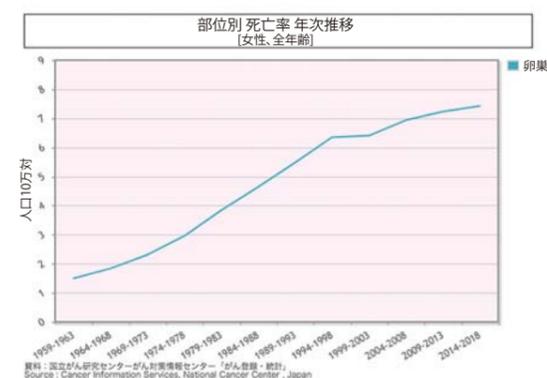


図4 チョコレート嚢胞からの発がん



*奈良県立医科大学産婦人科HPより引用

図1 卵巣がんの死亡率(年次推移)



*いずれも国立がん研究センターがん対策情報センター「がん登録・統計」にて作図

図2 卵巣がんの罹患率(年次推移)

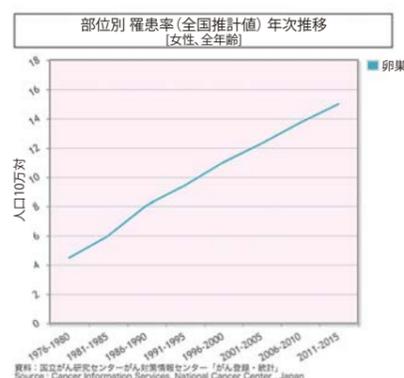


図5 現代女性の晩産化



資料:厚生労働省「人口動態統計」

低用量ピルを内服すると、体の外からこのホルモンが入って来た事を感じて、脳から卵巣にホルモンの分泌を止める指示を出し、その結果排卵が止まるのです。また体の中には、内服した薬の分の極少量のエストロゲン・プロゲステロンが存在する事になり、この薬をやめると体の中で月経が起こると同様の小さな働きが起こり、小さな月経様の出血が起こります。この月経を起こす動きは非常に小さいため、子宮内膜症の病巣に対してもあまり悪い働きをせず、痛みもあまり出なくなります。これが、低用量ピルの作用です(図6)。

早くピルを飲み始めると卵巣がんが減る!

日本では、低用量ピルと同じ内容の薬が以前から用いられていましたが、これは経口避妊薬(Oral Contraceptive: OC)と呼ばれ、排卵を抑制する薬の性格上、避妊を目的に使用されて来ました。薬の内容は同じでも、使用する目的はLEPとOCでは全くことなる事になります。LEPは月経困難症の治療薬として薬

の金額のみならず副作用確認の採血などは全て医療保険で賄えますが、OCは避妊薬とされていることから薬代も検査費用も全額自費となります。また、米国のデータでは、LEPを長期間飲んでいる女性には明らかに卵巣がんが起こりにくいことも疫学上ははっきりとわかって来ています(図7)。すなわち、多産の女性と同様に、LEPを内服する事による排卵抑制によって、卵巣がん患者が減ると言えるのです。

低用量ピルは安全な薬?

ただ、低用量ピルには怖い副作用も知られています。よく言われている様な“太る”ことではないのですが、時に静脈血栓症から肺塞栓・梗塞を引き起こす事が知られています。これは、薬に含まれているエストロゲンが血栓(血液の塊)を静脈内に作りやすく、主に下肢の太い静脈の壁に血栓ができます。それが何らかの拍子に壁から剥がれて、肺へゆく動脈や時には脳の動脈などに詰まってしまう事があると考えられているのです。命の問題にまで至る確率は、100,000人に1人程度とされていますので、決して高い確率ではありませんが、ゼロではないことは認識しておく必要があります。また、命に関わる問題が起こる前

に起こりやすいいくつかの症状(前兆)も知られていますので、薬の処方を受ける際にはそういった症状についてもきちんと説明があります。多くの場合に、前兆が出た段階で薬を中止し、嚴重に経過観察することで、命の問題にまで至ることは多くはないと考えられています。またLEPによる静脈血栓症は、年齢が高くなる程起こりやすい事が知られているため、LEPは原則として40歳以降の患者様にお勧めすることはあまりなく、また服用期限も50歳までとされています。いくつかの怖い点もある薬ですが、卵巣がんの生存率が低いことを考えると、若くてまだ赤ちゃんを作る予定のない女性は、LEPを内服する事によって子宮内膜症の発症・増悪を防ぎ、将来的に卵巣がんになる可能性を劇的に減らす事ができるのです。

子宮内膜症や、卵巣がんで苦しむ患者さんを減らすために、今LEPの服用が見直されてきています。こういったことから我々産婦人科医は、若い女性にはLEPを内服される事を是非とも考えてみて頂きたいと考えています。実際にLEPに興味のある方は、是非とも近くの産婦人科でご相談ください。



最新医療を知ろう

骨折治療の最前線!



整形外科 准教授
吉井 雄一
専門: 整形外科疾患全般、上肢・末梢神経疾患
日本整形外科学会 専門医
日本手外科学会 認定医
日本リハビリテーション医学会 専門医、指導医

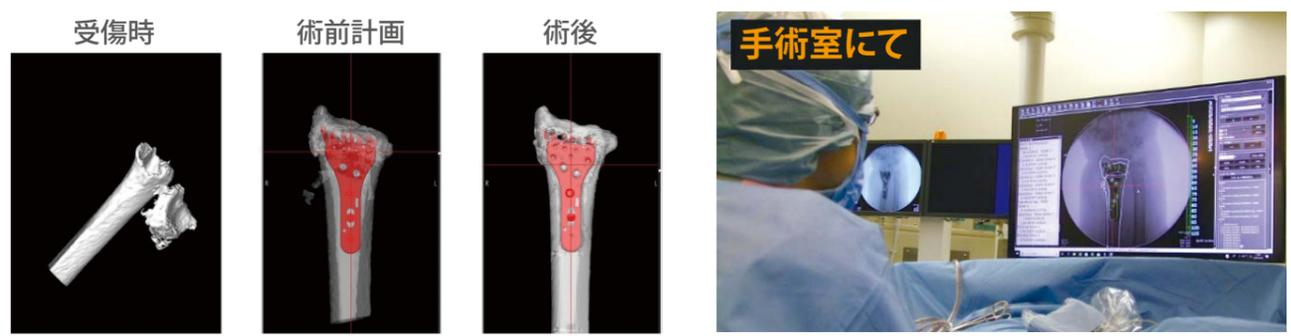
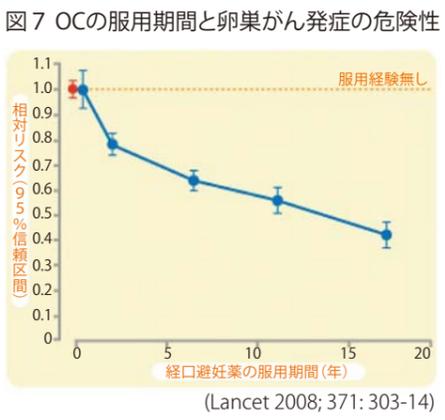
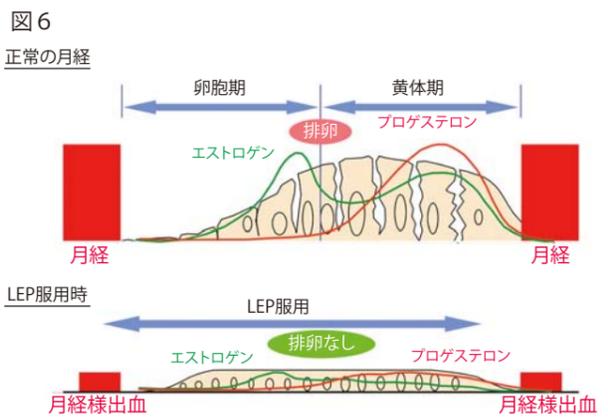
皆さんは骨折の治療というどのようなイメージをお持ちでしょうか? ギプスや副木による固定、ボルトやネジによる手術、リハビリ、松葉杖などのイメージでしょうか? 私ども整形外科では日々、全身各部位の骨折患者さんの治療を行っています。骨折の手術は整形外科の手術のなかでも多く、2019年度は骨折の手術だけで416件行いました。

他の病気の治療と同様に骨折手術の方法も日々進化していきます。最近では、ロッキングプレートやロッキングネイルといわれるシステムが骨折治療の主流になってきました。この固定法はプレートやネイル(骨のなかに入る芯棒のようなもの)がそれを支えるスクリューとロックす

る機構で固定されるようになっており、これにより骨粗しょう症などで脆弱となった骨の骨接合も強固に行えるようになっていきます。しかしこの固定法はスクリューとプレート・ネイルの位置関係が固定されるため、内固定材を骨折に対してどの位置に設置するかが非常に重要になってきます。設置の仕方によっては、手術後の骨接合部のずれ、骨癒合不全、スクリューの転位などの合併症を生じてしまいます。そこで私ども整形外科では、骨折治療の3D術前計画システム、術前計画と術中のX線をリンクする画像統合システムを独自に開発し、臨床応用してきました(図)。このシステムは骨折を受傷された際に撮影した

CT画像から骨折の3次元形状を視覚化し、整復状態と内固定材の設置位置を事前にシミュレーションし、術中のX線画像と対比しながら手術を行うものです。このシステムにより綿密な手術計画がたてられ、術者-助手-手術室スタッフの相互理解が深まります。実際に手術後に骨折がずれてしまう合併症の低減にも役立っています。整形外科ではこの治療法をすすめ、さらに高い精度の骨折治療を行えるように日々努力しています。

骨折は、まずしないことが大切ですが、もし万が一骨折してしまっても私ども整形外科では安心して治療していただける体制づくりを心掛けています。



職場探訪



地域医療と先進医療の 両立を目指して

当内視鏡部は、消化器領域、呼吸器領域がそれぞれ先進の内視鏡診断・治療を行うとともに、地域密着型大学病院の内視鏡部としてのニーズに対応しております。また経験豊富な看護スタッフが内視鏡診療を支えています。

消化器領域では、上部・下部・小腸・胆道領域で年間計 5,000 件を超える内視鏡検査を施行しており、地域のニーズと共に検査件数は増加傾向です。患者さんに優しい内視鏡検査を心がけており、現在上部消化管内視鏡の約半数の症例で経鼻内視鏡を行っております。またカプセル内視鏡やバルーン内視鏡等の小腸内視鏡診療も積極的に行っております。地域密着型病院の特徴として、消化管出血等に対する緊急内視鏡症例も豊富です。胃癌・大腸癌に対するESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）や胃粘膜下腫瘍に対して内科・外科連携でLECS（腹腔鏡・内視鏡合同手術）も行っております。また近年増加傾向の炎症性腸疾患の内視鏡症例も豊富です。

内視鏡部のご紹介



呼吸器領域では、Autofluorescence Imaging (AFI) や Narrow Band Imaging (NBI) 等の特殊光を用いた中心型早期肺癌の発見に努めております。中心型早期肺癌の治療では、本学で開発された最新の低侵襲治療である外科的切除を施行しない内視鏡的な光線力学的治療 (Photodynamic Therapy: PDT) を施行しており、進行肺癌による中枢気道狭窄に対しては硬性気管支鏡下のレーザー焼灼、アルゴンプラズマ凝固 (APC)、マイクロ波凝固やステント留置術などものインターベンション治療も施行しています。

当部署では消化器、呼吸器領域において最先進医療を提供するとともに、茨城県南地域医療の中核的存在になるべく今後もスタッフ一同で切磋琢磨していく所存です。

(内視鏡部 部長 岩本 淳一)



TOPICS -トピックス-

「ピンクリボン運動」を振り返って

「ピンクリボン運動」とは、乳がんについての正しい知識を多くの人に知って頂き、その結果乳がんから引き起こされる悲しみから一人でも多くの人を守るためにアメリカで発祥した活動のことです。

2017年10月から始めた乳腺科主催の「ピンクリボン運動」は、早いもので4年目を迎えました。2018年・2019年には筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻博士課程に在籍されている奥松功基先生をお招きして、乳がん患者さんご家族を対象に講演を行いました。

2018年は「スマートダイエット・エクササイズ」といったテーマで、摂取カロリーと栄養バランスを考慮した献立やコンビニ弁当を購入する際の組み合わせなどを紹介してくださいました。2019年は「乳がん患者さんにおける運動の重要性～自宅でもおこなえるミニエクササイズ～」といったテーマで、1日の運動量の目安とその種類を実演しながらの講演でした。普段の食事の摂取カロリーの多さに気づいた、汗をかいて気



持ちよかった、運動不足を解消できるように努めたい、このような会を毎年行ってほしい等と参加した方々よりたくさんのご意見、ご感想をいただきました。

今年の講演会は残念ながら新型コロナウイルスの予防対策で見送りましたが、治療に関わるスタッフがオリジナルポロシャツを着用し、小さな「ピンクリボン運動」を行っております。新型コロナウイルスの予防対策は十分にとってどの施設でも対応しております。乳がん検診でご相談がございましたら是非お声かけください。

看護部 乳がん看護認定看護師 川村伸代

新入職員紹介

リハビリテーション療法部に2020年4月より入職した新しいスタッフを以下に紹介します。

○理学療法士 早川友美(はやかわともみ)

私は就職試験の面接時に優しさを持った理学療法士になりたいと話していました。入職して約6ヵ月たった今もその気持ちは変わりません。5年後10年度も初心の気持ちを忘れずに理学療法を行っていくことが私の目標です。そして、先輩方に御指導していただいたことを吸収し、日々努力していきます。

○理学療法士 前田泰良(まえだたいら)

私は患者様本人やご家族の希望からより良い生活を送っていただけるように、理学療法を提供したいと考えています。この目標を達成するための知識や技術が学生の時に学んだことだけでは不足していると入職して改めて感じています。今後も患者様や病院に貢献していただけるように日々精進します。

○作業療法士 富永聖也(とみながせいや)

私の出身地は茨城県日立市です。趣味はス



左から早川、前田、富永、中村

ポーツ観戦です。新人らしく積極性をもって一日でも早く、病院の一員として貢献できるように頑張ります。至らないところも多々あるかと思いますが、よろしくお願ひします。

○作業療法士 中村智佳子(なかむらちかこ)

私は患者様を笑顔にできるような作業療法士になることが目標です。リハビリテーションに必要な知識や技術、患者様とのかかわり方を身に付けられるよう頑張りたいと思います。先輩方に近づけるよう日々努力していきます。よろしくお願ひします。



医療連携紹介

当院との医療連携登録医療機関を紹介するコーナーです。
第58回目は、小倉胃腸科肛門科(牛久市)をご紹介します。

小倉胃腸科肛門科

消化器内科、消化器外科、肛門科

牛久市東狸穴町1275-2 TEL 029-841-3000
FAX 029-841-4770

院長
おぐら かつのり
小倉 克徳

平成4年10月にひたち野うしく駅西口に開業し、28年間経過しました。

主に、肛門疾患の処置、日帰り手術を行っています。肛門疾患、便秘等でお悩みの方どうぞお気軽にご相談下さい。



診療時間 9:00~12:00
15:00~18:00

休診日 木曜日、日曜・祝日、土曜日午後

病院からのお知らせ

◆新型コロナウイルス感染症対策にかかる寄附へのお礼と公表について

当センターにおける新型コロナウイルス感染症対策に対し、下記の方々より心温まる寄附をいただきました。心から感謝しお礼申し上げます。

ご寄附いただいたマスク等は、有効に活用させていただきます。

●寄贈者、寄贈団体

- ・匿名(団体) 飲食物等
- ・匿名(団体) 飲食物等
- ・茨城県看護連盟 マスク、N95マスク、防護服他
- ・匿名(個人) N95マスク
- ・(株)MCエバテック N95マスク
- ・霞ヶ浦成人病研究事業団 N95マスク
- ・株式会社 坂東太郎 飲食物等
- ・コムネット株式会社 フェイスシールド
- ・和気ペインクリニック フェイスシールド等
- ・匿名(団体) マスク
- ・匿名(団体) マスク
- ・SAVER EATS茨城様(レストラン中台、旬の台所 連根屋、犬雑貨RUMKA) 飲食物等
- ・株式会社 伊藤園 飲食物等
- ・茨城中央ほしいも協同組合 飲食物等
- ・株式会社アイエス 代表取締役 入江健吾 N95マスク
- ・ネスレ日本株式会社ネスレヘルスサイエンスカンパニー 飲食物等
- ・株式会社 大塚製薬工場 飲食物等
- ・阿見町 サージカルマスク
- ・茨城県医師会 支援寄付金
- ・P P H Iグループ MEGAドン・キホーテ龍ヶ崎店 フェイスシールド、飲食物等
- ・医療従事者に感謝を伝える募金プロジェクト 飲食物等、消毒薬
- ・株式会社 ラクスマリーナ その他
- ・茨城県看護協会 防護服
- ・合同会社自然素材・木の家 支援寄付金
- ・株式会社MK company 支援寄付金
- ・平戸治夫様 支援寄付金
- ・医療従事者に感謝を伝える募金プロジェクト 飲食物(2回目)
- ・水戸ヤクルト販売株式会社 飲食物
- ・郡司建設株式会社 支援寄付金
- ・郡司 ちい子様 支援寄付金

